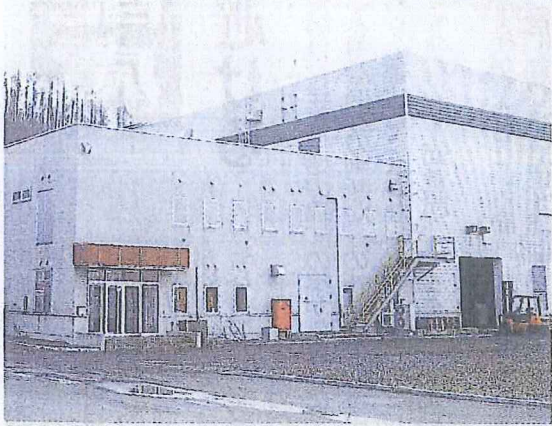


田中石灰 北海道企業買収

プラ容器処理 国内有数に

【香川】リサイクル業に進出している田中石灰工業（高知市五台山、田中克也社長）は20日までに、北海道のプラスチック容器処理企業の株式を100%取得し、子会社化した。田中石灰は道内で直営のリサイクル工場を稼働させており、今回の買収で容器包装リサイクル業法に基づく登録処理事業者は道内で同社のみになった。（大山哲也）

南国市稲生で創業し、出。2005年に高知市仁井田にプラ容器の年に廃棄物処理業に進出。リサイクル工場を整備



田中石灰工業が運営会社を買収した容器処理工場「エコパーク三笠」（北海道三笠市、同社提供）

し、08年には北海道当麻町にも直営工場を建設。一昨年からの2棟目も稼働させている。買収したのは北海道の建設会社グループの「シティサービス」（旭川市）。年間約1万5千トンのプラ容器を処理できる工場「エコパーク三笠」を08年から三笠市で運営していた。

田中石灰、シティ社とも、市町村の発注を受け、家庭などから回収されたプラ容器を工場に運搬。材質別の選別や粉砕などの処理を行って、ペレット状にして再利用業者に販売している。

シティ社の親会社が売却を模索し、日本M&Aセンター（東京）の仲介で昨年末から交渉を進めていた。田中石灰の処理能力は3工場

場で年間計7万6千トンを超となり、国内5位以内に入る。シティ社の従業員20人は全て田中石灰が引き継ぎ、買収による社名変更はしない。

家庭ごみの6割を占めるプラ容器は、再生用途の高度化を進める国の方針もあり、業界統合が加速。登録事業者は全国で44社と10年前から半減し、四国は田中石灰など3社、北海道は同社とシティ社の2社になっていた。

田中社長は「リサイクル業界は激変のなかで、地域ブロックで圧倒的シェアを握れば国の今後の狙いにも即応しやすい。リサイクル業者としての貢献も向上すると考えた」と話している。